



いいところ
見つけ!



住みたい、行きたい、帰りたい、
やさしい絆のまち

見附市の概要

「暮らし満足No.1のまち」を目指して

見附市の主な取り組み ① 「まちと産業を元気にする」

移住・定住の促進

「豊かな住まい」
成約率 **76%**

見附での生活のしやすさを体験してもらえる「お試し移住」、市民からの声掛けを促進する「つながり移住支援金」「移住アンバサダー」、移住・住宅取得に関する補助金等の充実など、戦略的で効果的なプロモーションを展開しています。



お試し移住拠点は「ウエルネスタウンみつけ」内に位置し、住宅地の販売促進にもつなげています。



コンパクトシティ（利便性）、自然の近さ、県内アクセスの良さなど、見附の魅力をホームページ、口コミなどで発信。

ハピネスみつけ

生活が便利なおこなまちで新潟をまるごと楽しむ

「ハピネスみつけ」は、新潟県見附市の移住定住支援サイト。見附の魅力を発信し、移住定住のきっかけとなるよう取り組んでいます。

移住定住応援サイト「ハピネスみつけ」
<https://happiness-mitsuke.jp>

中古住宅紹介サイト「豊かな住まい」
<https://sumai-mitsuke.com>

ウエルネスタウンみつけ 公共用地 52%

「スマートウエルネスみつけ」など、市が進める健幸施策を具体化・見える化した住宅地。産学官のトップが知恵を出し合い整備した、「景観」「健幸」に配慮した先進的な住宅地です。



3つの公園や2箇所に整備されたプロムナードなど、ゆとりのある空間を演出。無電柱化により空の広さを感じられる景観も魅力。

小学校米

全**8**小学校区

小学校区ごとの選りすぐりの農業者により栽培され、学校給食で提供されているコシヒカリを「小学校米」と名付け、ブランド米として商品化し販売しています。売上の一部は各小学校に寄付されます。



それぞれの地域で丹精込めて栽培されたコシヒカリが小学校米に。



子どもたちに「地消地産」の大切さを伝えることにもつながっています。

基幹地場産業

ニット産業への支援

男性用ニット製セーター他
出荷額 全国 **1**位

MITSUKE KNIT ブランドの拡大支援やファクトリーアウトレット「プリメイラ」の運営支援を行い、産地のブランド力と知名度の向上を図っています。



「プリメイラ」では高品質なニット製品をお得に買うことができます。「MITSUKE KNIT」オリジナル商品も販売。

見附市の主な取り組み ② 「こどもと子育てを支える」

共創郷育の推進

R6年度 学校に関わった人
6,443人

自分の力で未来を切り拓き、たくましく生きていく力を養うため、学校と家庭、地域が総がかりで子どもを育てる「共創郷育」を進めています。市内全学校に「地域コーディネーター」という地域の方々を配置し、学校だけでは解決が難しい課題に取り組んだり、子ども達の教育に関わったりしています。

- 学校に関わった地域の人
H17年度 **701**人 → R6年度 **6,443**人
- 地域と連携し教育を行う「コミュニティ・スクール」(文部科学省)
全13校 で実施



子育てしやすい職場づくり支援

R6年度末時点
新潟県の制度(※)の認定を受けた市内企業
27社

子育て環境と職場環境の双方の観点から子育て世代を呼び込むため、新潟県の制度(※)に認定された市内企業に対し、奨励金の交付や育休を取得させた場合の助成を行うなど、子育てしやすい環境づくりを後押ししています。



(※)新潟県の制度：「ハッピー・パートナー企業 パパ・ママ子育て応援プラス」
→ 特に仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組む企業

みつけJobチャレ教育

R6年度 関わった事業所数
述べ**117**

地元での起業・創業をはじめ、各校の特色ある活動とつなげながら、起業家精神と起業家的資質・能力を有する人材を子どもの頃から育成します。市内の企業や事業所等を含む関係者で「みつけJobチャレ教育実行委員会」を組織し、「オール見附」の体制で支援しています。



生産者への感謝の気持ちを持ち、お米の販売体験をする子どもたち



自分たちで見つけた課題を解決するために、商店に赴く子どもたち

わくわく体験塾

R6年度参加者
1,949人

夏休みを利用して学校間の枠を超えた異年齢交流活動を行い互いに協力し、相手を思いやる心を育てる事業です。学校・行政だけではなく、市内で活動している団体や個人、企業からも講座の開設と運営に参加してもらい、わくわく・どきどきする様々な体験を通じて児童生徒の健全育成に努めています。



見附市の主な取り組み ③「健幸づくりを支える」

住んでいるだけで健やかで幸せになれるまち

スマートウエルネスみつけ

自家用車に頼らず、徒歩や公共交通を使って生活できるまちづくりを進め、住んでいるだけで健やかで幸せになれるまち「スマートウエルネスみつけ」の実現に取り組んでいます。

公共施設や商業・医療施設がある3地区に施設を集約し整備、さらに3地区内で利便性の高いコミュニティバスを走らせることで、市民の足を確保。複数の目的地を自家用車に頼らず移動できるようにし、人との交流や歩数が自然と増えるようにしています。

市内を循環する

コミュニティバス

R6年度利用者
19万人



見附市コミュニティバス専用
中学生以下 無料券
タダけん
コミュニティバス全区間
R8.4.30 まで有効

子育て支援の一環として、令和5年7月より市内在住の中学生以下の運賃を無料化しました。子どもたちの活動範囲の拡大を促し、地域の魅力発見や郷土愛の醸成につなげていきます。

地域医療体制の充実に向けて

診療所の積極的な誘致

R5.4月

3 医院開業

小児科・内科・精神科

医科診療所の新規開業に対して、特定の診療科目に関する上乗せを含め最大1,200万円の支援制度を用意しています。

○「外出したくなる施設」を3地区へ集約

見附地区	今町地区	見附駅周辺地区
商店街・市役所・市立病院 周辺地域 など	商店街を中心とした商業地域	東口・西口周辺地域

○自家用車に頼らず暮らせる「公共交通」



スマートウエルネスみつけを若者や女性、子どもたちにも

MOM UP PARK by 健幸スマイルスタジオ

令和5年9月からネブルみつけ内子育て支援センターで開始した、対面教室とオンライン教室による運動・交流・相談が一体となったプログラムです。妊婦さん、ママの健康づくりや子育て不安の解消につなげていきます。



運動を通して、心身ともにリフレッシュ！

全国10自治体で連携



見附市の主な取り組み ④「暮らしの安心・安全を確保する」

全市一斉の総合防災訓練

過去10回参加者
約12万人

平成16年の「7・13水害」を教訓に、毎年6月に市内一斉の総合防災訓練を実施。中学生ボランティアも各地域の訓練に参加しています。



自衛隊が炊飯したご飯を使った避難所炊き出し訓練。



中学生ボランティアも参加した土のう積み訓練。

田んぼダム

100%実施で
床上浸水0haに

大雨時に下流域の農耕地や住宅地の洪水被害を軽減するため田んぼの排水口を小さくし、河川への水の流出を抑制することでダムの役割を持たせる取り組みです。



河川への流出量を従来の5分の1に抑え、下流域の洪水被害を軽減します。



一度設置すればその後の操作は不要。事業費も安く、効果が高い事業です。

防災スクール

R6年度開催校
全13校

小中学生を対象に、災害が発生した際に危険となる箇所の確認や服を着たまま浮く練習、避難所における支援や人命救助に係わる体験など、災害への対応力を養成しています。



服を着たまま浮く「着衣泳訓練」。



自分たちで考えた避難所空間を、実際に体育館で設営。

避難インフルエンサー

対象地域の
84%で選任済み

危険が迫っていても“逃げない”人の心を動かす決め手は、信頼できる人からの「口コミ」—— 浸水時に特に危険性が高い地域で、近所へ声掛けを行い共に避難行動を取る「避難インフルエンサー」の選任を進めています。

トイレトレーラー

清潔な洋式トイレ
4室備え付け

災害時のトイレ不足は、関連死を招いたり二次被害にもつながる深刻な問題です。見附市は災害時でも機動的に使える、4室のトイレを備えたトレーラーを令和2年度から導入しています。



要請を受けて能登町へ派遣 (R6.1月 能登半島地震)

見附市の主な取り組み ⑤「市民の皆様へ寄り添う」

書かない窓口

各種手続きにおいて、従来は来庁者が記入していた申請書をシステム出力する方式に変更。来庁者は窓口で用件を伝え、内容確認と署名だけで手続きできます。手続き内容は市のシステム内で関係部署に情報共有されるため、申請漏れを防ぎ、他の部署での手続きの円滑化や時間短縮、省力化につながります。

- 効果
- ・申請書記入の負担軽減
- ・待ち時間・手続き時間の短縮
- ・職員の窓口対応レベルの均一化

など



239の
申請・手続きで運用

ふれあい懇談会

月1回開催

市民と市長がさまざまなテーマで直接意見交換を行います。市の課題や市民が思う地域の将来像を把握し、ニーズに沿ったきめ細かな行政につなげます。



「若者施策」「魅力づくり」などさまざまなテーマを設け提案や意見をお聞かせします。



テーマ別の開催と並行し、コミュニティ単位（地区別）でも開催。

見附市の主な取り組み ⑥「あらゆる力を結集する」

地域コミュニティ

市内全11の地域コミュニティと連携を図りながら、地域課題の解決に取り組んでいます。それぞれの地域の特性をふまえながらコミュニティ独自の発想で地域の活性化などを進めています。



住民カバー率
100%

市民団体等との協働

ボラレ 加盟団体
約100団体

市民活動・ボランティア連絡協議会（「みつけボラレ」）に約100もの団体が加盟するなど、市民団体やボランティア団体の活動が活発です。福祉、文化芸術、環境などさまざまな分野で市民団体等と協働し、まちづくりを進めています。令和7年6月には、社会貢献活動や地域課題の解決に取り組む市民団体の活動拠点となる、市民活動支援センター「まちなかベースみつけ」がオープンしました。

- ①地域コミュニティの支援拠点として「ふるさとセンター」を全地域に設置（全てのセンターに職員を配置）し、その一画を活動拠点として提供
- ②活動資金として「地域ふるさとづくり活動交付金」を交付
 - ・均等割、人口割のほか、高齢者や子どもの人数に応じて交付金を算定
 - ・上記に加えて、地域課題に対して積極的に挑戦するための資金「チャレンジ枠」（R7予算額：440万円）を併せて交付
- ③コミュニティ活動に自由に使えるワゴン車を各1台無償貸与。運行に要する燃料費や維持管理費は市が負担



市民団体が管理する「市民の森」は自然観察の場としても人気です。



街路樹イルミネーション（全長1.3km）。市民の寄附とボランティアで設置。



放課後児童クラブを運営する地域コミュニティもあります。



地域の交通課題の解決に向け、コミュニティワゴンを運行。



みつけイングリッシュガーデンの植栽管理も市民団体「ナチュラルガーデンクラブ」が実施。



「まちなかベースみつけ」は旧医療施設をリノベーション。市内利用団体が日常的な管理や運営を担います。

見附市の主な取り組み ⑦「行財政を検証し必要に応じ見直す」

「性能発注」による施設整備

整備コスト
従来比41億円減

施設整備にあたり、従来の公共事業に多く見られた、発注者が詳細に仕様を指定する「仕様発注」ではなく、受注者の高い技術力や維持管理のノウハウを活用できる「性能発注」を採用、大幅なコストダウンを図りました。

○青木浄水場

- ▶5か年事業（H28～R2年度）総事業費：77.1億円
- ▶県内で初めて浄水場の更新事業にDBO方式を採用
- ▶従来型の発注方式と比べ、**22億円の経費削減**（建設費で9億円、20年間の運転維持管理費で13億円）



○ごみ焼却施設

- ▶2か年事業（H29～30年度）総事業費：52.4億円
- ▶DBO方式による事業者選定を採用
- ▶従来型の発注方式と比べ、**19億円の経費削減**（建設費で3.5億円、20年間の運転維持管理費で15.5億円）



市民交流センター ネーブルみつけ

R6年度来館者
41万人



撤退したスーパーをリノベーションし平成16年にオープン。健康運動教室や子育て支援センター、市のアンテナショップもあり、様々な人が利用する交流の拠点施設です。

【時間】9:00～21:45（年末年始休館）
【電話】0258-62-7801

道の駅 パティオにいがた

R6年度来場者
111万人



広大な芝生広場を備え、遠くには守門岳・粟ヶ岳を望む絶好のロケーションを誇ります。

災害時には、自衛隊やボランティアの活動拠点になります。

【時間】9:00～19:00（年中無休）
【電話】0258-94-6211

プレイラボみつけ

R6年度来館者
5万5千人



旧商業施設をリノベーションし整備した2階建て屋内施設。大型遊具や工作スペースを備え、放課後や休日に、子どもたちが天候に関係なく運動などをして自由に過ごすことができます。

【時間】平日 15:00～17:45
土日祝 10:00～16:00
【電話】0258-94-5511

MITSUKERU （ミツケル）

R6年度来館者
5万8千人



見附駅前の駐輪場の2階をリノベーションした交流拠点。利用者同士の交流や公共交通の待合い、仕事、勉強、おしゃべりの場などに活用できます。一部はイベント会場としても使用可能です。

【時間】10:00～21:00（年末年始休館）
※日曜祝日を含め、スタッフ不在の場合あり

英国式庭園

R6年度来園者
18万人



みつけ イングリッシュガーデン

本格的な英国式庭園で、バラの季節には息を飲むほど美しい光景が広がります。1,000種を超える植物が彩る四季折々の光景は感動的です。

【時間】8:40～日没（12～3月は閉園）
【電話】0258-66-8832

みつけ 健幸の湯 ほっとぴあ

R6年度来館者
19万人



平成28年8月に9種のお風呂と遠赤外線サウナを楽しむことができる施設としてオープン。3階には県内屈指の規模を誇る岩盤浴施設があります。

【時間】8:00～23:00（年中無休）
【電話】0258-86-1126



新潟県中部産業団地



● 拠点市街地ゾーン



大平森林公園



ギャラリーみつけ

見附市のあらし

人口4万人規模の小さなまち見附市。市の中心を信濃川水系の刈谷田川が流れ、豊かな水と清涼な空気に恵まれています。豊かな自然、県内でも有数の田園地帯があり、春の芽吹き、夏の深緑、秋の紅葉と黄金色の稲穂そして冬の銀世界、四季折々の風情を味わうことができます。

人口の推移

各年とも4月1日時点 (単位: 人: 世帯)

	R3	R4	R5	R6	R7
人口	39,842	39,315	38,881	38,408	37,777
世帯数	15,209	15,159	15,277	15,350	15,321

年齢別人口

4月1日時点 (単位: 人: %)

年齢3区分	男性	女性	合計	構成比率
15歳未満 (年少人口)	2,123	1,930	4,053	10.7%
15~64歳 (生産年齢人口)	10,495	10,136	20,631	54.6%
65歳以上 (老年人口)	5,821	7,272	13,093	34.7%
合計	18,439	19,338	37,777	100.0%

産業

就業人口

各年とも10月1日時点 (単位: 人)

産業3区分	平成27年			令和2年		
	総数	男	女	総数	男	女
第一次産業	820	530	290	714	471	243
第二次産業	7,241	4,846	2,395	6,911	4,634	2,277
第三次産業	12,460	5,858	6,642	12,339	5,716	6,623

製造品出荷額

各年とも12月31日時点 (単位: 万円)

	平成23年	令和3年	増減率
製造品出荷額 総数	10,365,774	16,399,978	158.2%

古くは、ニット等の繊維産業を基幹産業として発展してきた見附市。近年では、県営中部産業団地への企業進出により、産業構造が多様化、製造品出荷額はここ10年でおおよそ1.5倍となっています。



- 北陸道中之島見附I.Cから2km
- 上越新幹線長岡駅から11km
- 東京から260km
- 大阪から540km
- 名古屋から410km

面積	周囲	広ぼう		海拔	
		東西	南北	最高	最低
77.91km ²	71.7km	11.5km	14.7km	300m	10m

気象 (令和6年1月1日~令和6年12月31日)

- ・年間平均気温 13.7℃ (最高値 8月30日 36.7℃ 最低値 2月7日 -4.0℃)
- ・年間降水量 2,236.5mm (日最大量 8月25日 56.0mm)

魅力的なまちづくりが評価され、数々の賞を受賞!

★SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業(R1)

どちらも県内初の認定!



★コンパクトシティ大賞(H29)

★プラチナ大賞(H29)

★先進的まちづくりシティコンペ(H30)

★ブリテンインブルーム ゴールドコミュニティ賞(R6)

英国以外で初の受賞!

★令和6年度市民アンケートでは

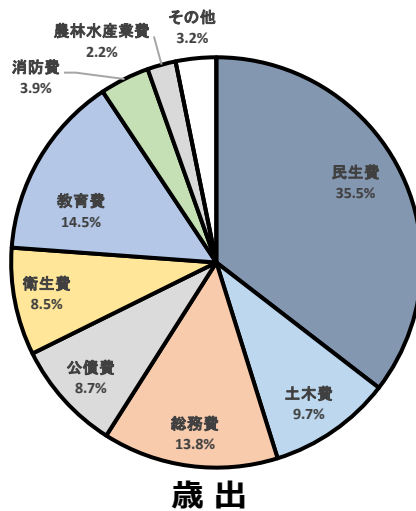
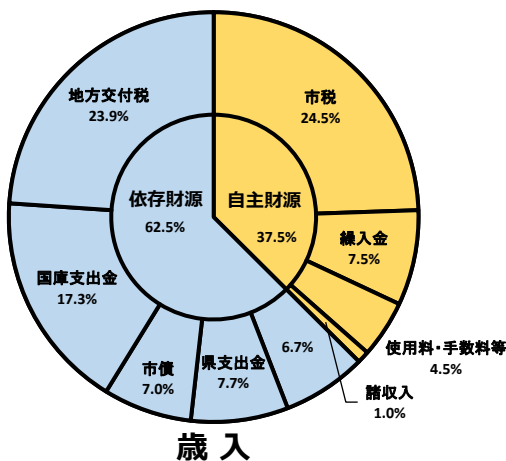
91.8%が

過去最高!

「住み良い」「どちらかという住み良い」と回答

令和7年度 予算

○一般会計: 199億8000万円



一般会計歳入内訳 (単位: 万円)

市税	48億8760
繰入金	15億0135
諸収入	1億9127
使用料・手数料等	9億0366
自主財源計	74億8388

地方交付税	47億8000
国庫支出金	34億5305
県支出金	15億3317
市債	13億9440
その他交付金等	13億3050
依存財源計	124億9612

一般会計歳出内訳 (単位: 万円)

民生費	70億8393
土木費	19億4231
総務費	27億6542
公債費	17億3164
衛生費	16億9158
教育費	28億9985
消防費	7億8178
農林水産業費	4億4668
その他	6億3681
歳出計	199億8000

○特別会計

- ・国民健康保険事業 33億4000万円
- ・後期高齢者医療 5億6300万円
- ・介護保険事業 45億1500万円
- ・宅地造成事業 1億5500万円

○企業会計

- ・水道事業 22億7400万円
- ・下水道事業 34億7600万円
- ・病院事業 27億8550万円